寺崎武男の友人

おおるい のぶる

大類 伸 1884-1975 歴史学者・城郭研究者

第一高等学校・東京帝国大学史学科・同大学院卒業。フランス・ドイツ・イタリアに留学し、中世文化史・ルネサンス史の先駆者。同大講師・助教授を経て、1924年より東北帝国大学教授・同名誉教授。学士院会員。呉建とは一高の寄宿舎が同室の友人であり、養父の大類久徴は大蔵属で武男の父寺崎遜と友人であった。 伸と武男は友情を深め、イタリアでの史跡 巡りや調査スケッチに同行している。

<1920(T9).9.29> No.4

大類伸(東京)→ 寺崎武男(ヴェネチア)

「…<u>イタリア旅行を大兄と一緒に出来るのを最大の幸福</u>。 旅費支出は本屋に相談したが、何とかなるだろう。来年 3/4 出発しパリ滞在、秋にイタリアに入る予定。…」

<1921(T10).9.7> No.9

大類伸(ベルリン) → 寺崎武男(ヴェネチア)

「…8/26, 28 ハガキ拝受。14 日ベルリン発、15 日ベニス着。ベニス一週間滞在、ラヴェンナなど 1 週間旅行、10/1 にローマへ…」

<1921(T10).11.6> No.12

大類伸(ローマ) → 寺崎武男(ヴェネチア)

「…11/18 から 2 週間フィレンツェへ。其時ラヴェンナにも行きたいが、そこで大兄と会い、一緒に見物如何か。…」

<1922(T11).1.17> No.19

大類伸(ローマ) → 寺崎武男(ヴェネチア)

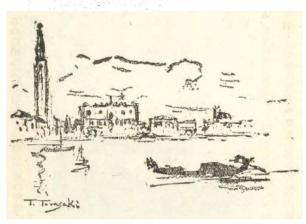
「…一昨日ローマに帰ってきた。 旅行は貴兄の お陰で万事好都合…」



大類伸は、ヴェネチアに滞在していた 寺崎武男とともに、イタリア各地をめぐり、 その思い出を雑誌『太陽』に連載した。武 男は、道中多くのスケッチを描き、その一 部は大類の著書『伊太利みやげ』に収め られている。

大類のイタリア美術史研究の業績は、 武男の存在が大きかったと思われる。





<1922(T11).10.15> No.32

大類伸(ローマ)→ 寺崎武男(ヴェネチア)

「…イタリアの様子が『太陽』8 月号に第1回 掲載、5回くらい連載されるだろう…」